

2018年3月4日

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」 ヨハネ 15：1

主イエスは、弟子たちが新しい教会の指導者となる時に、主につながっていれば豊かに実を結ぶ、と言われます。

「まことのぶどうの木」は、旧約のイスラエルが「酸っぱいぶどう」（イザヤ5：2）や「悪い野ぶどう」（エレミヤ2：21）になったので、「本来あるべきぶどう」として、農夫である父なる神によって植えられ（→3：16）、「手入れ（剪定）」して実を結ばせられます。

ぶどうの枝（弟子たち）は「既に清くなっている」（→13：10）ので、大切なのは、「木に（継続的に）つながっている」ことです。そうすれば、「その人は豊かに実を結ぶ」ことが出来ます。「私たちはキリストの外にいる限り、どんな良い実りももたらすことはない」（カルヴァン）でしょう（洗礼から成長へ！）。

実りの豊かな教会のキーワードが3つあります。①「望むものを何でも願うこと（祈り）。父なる神は豊かな収穫で「栄光をお受けに」なります（一反で何俵と自慢する農夫！）。②「愛にとどまって」いること。③「喜びが満たされる」こと。主につながっている教会は成長します（これからの福山教会！）。

教会は主イエスを中心にした集まりです。「ひとつのみかて（御糧）ともに受けて」（パンとぶどう酒！）、「君の来ますを切に祈」（讃191番）って待ちます。

2018年3月11日

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」 ヨハネ 15：16

主イエスが去られた後、弟子たちは自立を迫られますが、主が彼らを選んで下さったのですから安心してよいのです。

彼らは「互いに愛し合う」（→13：34）べきですが、具体的には「友のために自分の命を捨てる」（主の十字架！）ことです（命を削るほどの労苦→Ⅱコリント11：16以下）。今の彼らは、主から「僕とは呼ばない…友と呼ぶ」と言われるほどに成長しましたが、3年半前に主に選ばれ（→1：35以下）、「出かけて行って実を結び、その実が（いつまでも）残るように…任命」されたのです。「互いに愛し合い」つつ伝道すべきです（不肖の弟子→主に肖（に）た弟子たち）。

「世があなたがたを憎むなら…」と主は予告され、ご自分を憎んだ世の人々は彼らも憎むが、「僕は主人にまさりはしない」（13：16）ので驚く必要はないのです。「理由もなく、わたしを憎んだ」（詩35：19）とある通りです。「信ずる者は慌てることはない」（イザヤ28：16）！

そういう時でも、「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者」（聖霊）が主を証しされるので、彼らも証します（→Ⅰヨハネ1：1）。

「汝ら我を選びしにあらず、我なんじらを選べり」（文語）と言われる主が私たちを用いられます（→出3：11以下）。「主のものとなりけり」（讃529番）です。

2018年3月18日

「しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」 ヨハネ 16:33

14章から始まった「別れの説教」の最後で、主イエスは弟子たちに勝利を語り、勇気を出すように、と励まされます。

これまで主は、「たとえを用いて話して」来られましたが（→飛行機の話をするレオナルド・ダヴィンチ）、これからは「父御自身が、あなたがたを（友のように）愛しておられる」ので、「あなたがたはわたしの名によって願う」ことが出来ます（→「祈りの人」シンプソン）。

御子イエスは、「父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く」と、御自分が神と一体であることをはっきりと話され、弟子たちもそれに対して、「わたしたちは信じます」と答えます（GPSで自分の居場所が確認できるようになって安心するように！）。

主は彼らの成長を喜ぶと共に、「今ようやく信じるようになったのか」と言われます。「弟子たちが余りにも有頂天になっているので、キリストは彼らを戒めておられる。」（カルヴァン）「あなたがたが散らされて自分の家に帰るようになって、わたしによって（主の懐の中で）平和を得る」でしょう。

誰も皆「世で苦難がある」のですが、大丈夫です。主は苦難を受けて、「成し遂げられた」（19:30）と勝利を宣言されます。「インマヌエル（神共にいます）の君」（讃161番）が私たちの主です。

2018年3月25日

「父よ…すべての人を一つにしてください。」 ヨハネ 17:21

17章では、主イエスは先ずご自分のために（1-5節）、次に弟子たちのために（6-19節）、最後にこれから形作られる教会のために（20-26節）祈られます。

「彼ら（弟子たち）のためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々」とは、「ほかの羊」（10:16）とか「ギリシヤ人」（12:20）と言われるユダヤ人以外のクリスチャンのことで、「彼らもわたしたち（御父と御子）の内にいるように」と祈られます（→Iヨハネ1:3）。それを見て、神が「彼ら（教会）をも愛しておられたことを、世が知るようになるでしょう（グローバルな教会→外国人の多い福山教会！）。

そのクリスチャンたちを、「わたしのいる所（神の右の座）に、共におらせ…わたしの栄光を、彼らに見せ」たいと主は願われます（グローリアス《栄光に満ちた》教会→福山教会に誇りを！）。

「正しい父よ」と呼びかけて、教会が世の中の御利益信仰に妥協せず、「（神の）御名を彼ら（弟子たち）に…これからも（新しい信者に）知らせ」て、彼らの信仰が成長するように、と主は祈られます（グローイング《成長を続ける》教会→成長する年長者は若々しい！）。

「すべての（種々雑多な）人」を受け入る教会（若い牧師でも育てた！）は「栄えに満ちた神の都」（讃194番）です。